

活動状況

余別・海HUGくみたい

この組織では「森・川・海」の繋がりを大切にし、藻場の保全活動として、海の活動ばかりではなく植林や川での放流などの活動を積極的に行ってきました。

「流域における植林」活動は平成25年度から実施しています。

この活動には大学、サポート専門家、地元住民が参加しており、数年前までは学校の子供たちが種苗を育てるなど、積極的な活動を行っています。

令和2年度にはウニ殻を肥料とする試みを行い、翌年のモニタリングでは鹿による食害も見られましたが、施肥の効果が実感できたようです。

植林活動の効果は長い年月が掛かりますが、成長していく植物の背丈を若手漁師たちが熱心に測ったり、柵を付けようと声が上がったりと、前向きな活動が行われています。



また、「森・川・海」の繋がりの理解を深めるため、令和4年度から「多面的機能の理解・増進を図る取組」を使い地元小学校の児童と共に活動を始めました。

小学生たちは教室で「森・川・海」の繋がりを勉強し、川では「サケの放流体験」、海では「養殖ウニの餌やりの見学」や「ウニ剥きの体験」も行いました。

この組織の取組は、まさに次の世代が海を HUG くむ（育む）活動となっています。



「森・川・海」の繋がりを勉強中



川にサケの稚魚を放流



漁港でウニの餌やりを見学



ウニ剥きを体験